

オスプレイの飛行再開に断固抗議する（談話）

2016年12月19日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

在日米海兵隊は、12月13日夜の墜落事故発生から中止していた普天間基地配備のMV-22 オスプレイの飛行をきょう午後2時から再開すると発表しました。そして、稲田防衛大臣はこれについて「理解できる」として容認することを表明しました。

私たちは、オスプレイの飛行再開に強く抗議し、飛行中止と配備の撤回を要求します。

名護市の墜落現場には日本の捜査関係者も行政担当者も入れず、事故原因の調査と発表はアメリカ軍が単独でおこなっています。このようなもとの飛行再開は断じて許されず、これを容認する安倍政権は、どこの国の政府か、といわなければなりません。

翁長沖縄県知事は、飛行再開すべきでないとして強く求めていたにもかかわらず、これを無視して飛行再開したこと、これを容認した安倍政権に「法治国家ではない」と抗議しています。

私たちは、このような暴挙に抗議するとともに、オスプレイ配備の撤回、新たな導入・配備計画と、日米共用の整備拠点づくりをやめさせるため、沖縄との連帯をさらに強めてたたかうことを表明します。

以上